

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	58	大学等名	宇部工業高等専門学校
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、4学期制の導入に伴って、本事業の展開のみならず、各期に即した内容の教育が実施できるようカリキュラム改革を行ったこと、高専の特性を生かした学科学年横断型の「プロジェクト学習」や低学年と高学年がペアとなって探究する「リサーチワークショップ」など、魅力的で他校にも参考となる実践が展開されたことが高く評価できる。なお、現在、取組を進めている学修成果の可視化についても、可視化することを目的とするのではなく、学生の主体的な学びの促進に寄与するような可視化の実現を目指した継続的な取組が期待される。

事業の具体的な取組の進捗状況については、着実に事業は実施され、目標の達成状況についても、おおむね設定された目標値を達成していることは評価できるが、いくつか検討が必要な点もある。まず、必須指標である「長期学外学修プログラムに参加する学生の割合（長期インターンシップ）」が目標値を大幅に下回っている点は十分な検討と対策が必要である。その原因として、実習先企業開拓の不足や学生の専門性ととのマッチング不良が挙げられているが、更に言えばこれらが生じた原因を究明する必要がある。特定の担当者に依存しすぎているか、企業の声や学生の声を十分に聴取するための体制や機会が十分に取れているのかなど、組織的な検討が求められる。また、4学期制の導入によって当該プログラムの履修が一定可能となったが、依然として学生が自由に選択し履修できるようにするためには、学校行事をはじめとする学年暦との調整が必要である。難しい課題ではあるが、より多くの学生が履修できるよう引き続き検討が期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、全学的な体制が構築され、校長を中心に事業が展開されている点は十分評価できる。また、FD・SDについて、各種のスキルアップ研修が積極的に実施されているが、教職員の能力・スキルの向上のみならず、意識の醸成も持続的な教育改革には不可欠である。この観点からのFD・SDが実施されているかについて改めて確認するとともに、更なる取組が期待される。なお、客観的なエビデンスとして、GPAとジェネリックスキル測定が挙げられているが、これらの測定結果をスコアの上昇値のみで見るとはならず、教育プログラムの持続的な改善・発展につなげられるよう引き続き検討が期待される。

事業成果の普及については、前例の少ない高専における4学期制の導入及び年間100人規模での海外研修への派遣など先駆的モデルとして十分評価できる。一方で、4学期制の意義や、そこで生じる課題及びその解決方法についても引き続き検討・研究し、その成果を積極的に発信することが期待される。